

製品名: PPAR デルタ (2F9) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM16407**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:200, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	PPARD
別名	Peroxisome proliferator-activated receptor delta (PPAR-delta) (NUC1) (Nuclear hormone receptor 1) (NUC1) (Nuclear receptor subfamily 1 group C member 2) (Peroxisome proliferator-activated receptor beta) (PPAR-beta)
遺伝子 ID	5467.0
SwissProt ID	Q03181
免疫原	PPAR デルタの組換えタンパク質

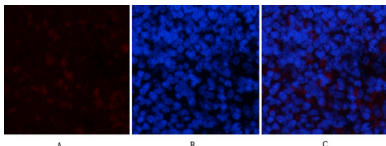
背景

ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体デルタ (PPARD) Homo sapiens この遺伝子は、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 (PPAR) ファミリーのメンバーをコードしています。PPAR は、ペルオキシソーム増殖因子に結合し、細胞によって生成されるペルオキシソームのサイズと数を制御する核ホルモン受容体です。PPAR はさまざまな生物学的プロセスを媒介し、糖尿病、肥満、アテローム性動脈硬化症、および癌を含むいくつかの慢性疾患の発生に関与している可能性があります。このタンパク質は、PPAR アルファおよび PPAR ガンマのリガンド誘導性転写活性の強力な阻害剤です。これは、転写抑制と核内受容体シグナル伝達の統合因子として機能する可能性があります。この遺伝子の発現は、大腸癌細胞で上昇していることがわかっています。発現の上昇は、APC/ β -カテニンシグナル伝達経路に関連する腫瘍抑制タンパク質である大腸腺腫症ポリポーシス (APC) によって抑制される可能性があります。マウスを用いたノックアウト研究により、この受容体の役割が示唆されました。機能: 脂質低下薬や脂肪酸などのペルオキシソーム増殖因子に結合する受容体。リガンドによって活性化されると、アシル CoA 酸化酵素遺伝子のプロモーター領域に結合し、その転写を活性化します。これにより、脂肪酸のペルオキシソーム β 酸化経路を制御します。リガンドによって活性化されると、NPC1L1 の発現を低下させます。、オンライン情報: ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体への侵入、類似性: 核ホルモン受容体ファミリーに属する。NR1 サブファミリー。、類似性: 核受容体 DNA 結合ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: レチノイド X 受容体とのヘテロ二量体。、組織特異性: 胎盤と骨格筋に最も多く存在し、普遍的に存在します。、

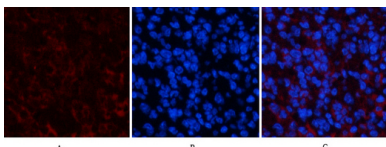
研究分野

PPAR、WNT、WNT-T 細胞がんにおける経路、急性骨髄性白血病

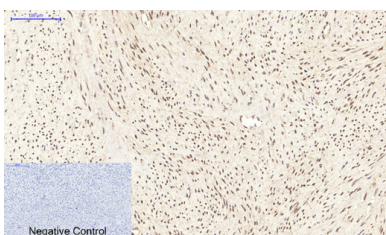
画像データ



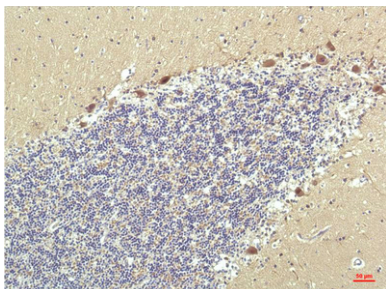
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR Delta マウスモノクローナル抗体 (2F9) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



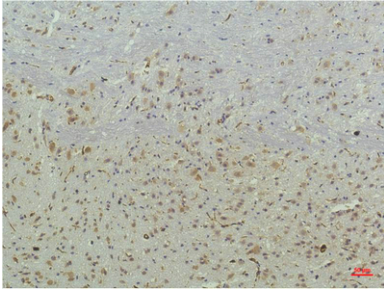
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, PPAR Delta マウスモノクローナル抗体 (2F9) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. PPAR Delta マウスモノクローナル抗体 (2F9) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



1:200 に希釈した PPAR Delta マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学分析。



1:200 に希釈した PPAR Delta Mouse mAb を使用したパラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。